公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

やまぐち 桜の森 通信

2008.10 第2号

山口県立大学広報誌

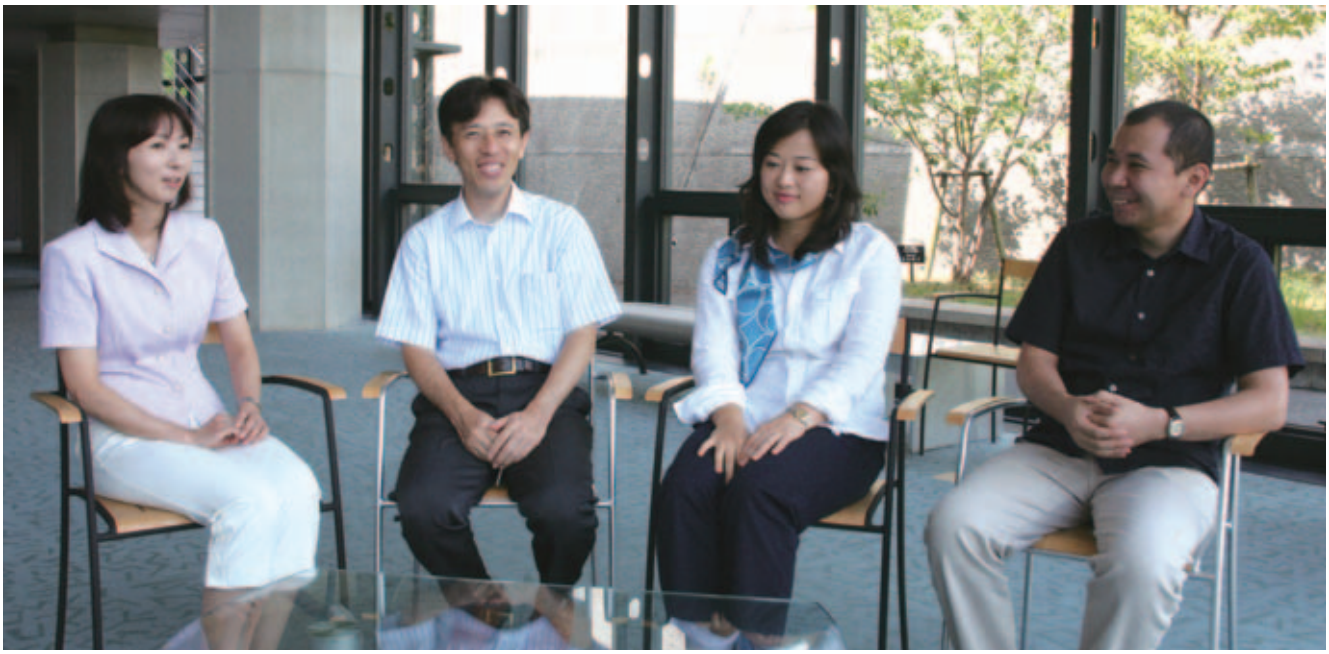
[特集Ⅰ]
教職員座談会
「これからの山口県立大学」

この半年の出来事

[特集Ⅱ]
学生スタッフ体験記・出身高校訪問体験記

研究室紹介
講義紹介
各種相談Q&A
学生紹介
サークル紹介
留学生紹介
トピックス

これからの山口県立大学



山口県立大学を選んだ理由は 地域貢献度の高さと将来性

このたびは、平成18年4月の独立行政法人化後に採用された教員の林さん、山口さん、職員の植田さん、中島さんに集まっていただきました。

――まず、本学への志望動機を聞かせてください。

山口　国立・私立と大学を見てきた中で、少人数による地域密着型の教育・研究ができる公立大学の体制がうらやましく、以前から大変興味がありました。また、現在私が所属している文化創造学科は昨年度新設されたばかりで、ここでの地方発信型の企画プロデュースにも関心があり、新天地で新世代の教育をしたいと思いました。

林　山口県立大学は小規模の大学ではありますが、地域貢献型大学としての明確なミッション（役割・使命）を持っており、「人」に着目し、「人」との関わりを重視した教育研究や取り組みが私の目指す教育観と一致しました。さらに、山口が文化・歴史的にも中国や朝鮮半島と密接な関係にあるという地域性を生かして、英語の他、中国語、韓国語に特化した外国語教育を展開していることから、自分の専門性を発揮できるのではないかと感じました。

植田　私は先生になるのが子どもの頃からの夢で、民間企業に就職した後も、教育現場に関わる仕事に就きたいという思いを拭いきれずにいました。また、仕事を通して社会に役立つこと、地域に貢献していくことができればとも常々考えていました。そんな時に、本学のホームページで職員採用の公募を知り、長年の願いを果たすことができるかもしれないという期待と同時に、年齢的にも最後のチャンスと考え、思い切って採用試験に臨みました。

中島　私立大学、国立大学の事務職を経て本学を志望しました。都市部の大規模大学では成し得ない取り組みを積極的に展開する本学のフットワークの良さは、地域に密着した多数のＧＰが採択されたことにも裏付けられていると思います。そのような環境下で、プロパー事務職員第1期生として自分の可能性を試してみたいという思いと、法人化後の変革期にある大学の未来をともに築き、歩んでいけるのではないかという明るい希望を感じました。

うちに秘めたパワーがあり とても風通しの良い大学

――それぞれに思いあって本学を選ばれたわけですが、実際に職務に就いてみていかがですか？

中島　本学に来て改めて、大学職員の面白さを実感しています。大学生活を満喫しているパワフルな学生さんが多く、皆さんが積極的に活動している姿を目にしながら、ここの職員となることができて本当に良かったと思っています。また、本学は教育職員と事務職員の垣根が低く、とても風通しの良い職場環境なので、とてもスムー

ズに業務が行えます。

植田　プロパー事務職員第1期生という立場に勝手にプレッシャーを感じ、とにかく自分に課せられた仕事をまず覚え、少しでも早くマイナス戦力から脱却しようと必死でした。そんな私を根気強く指導し、見守ってくださるリーダーをはじめ経理・総務グループの皆さんのおかげで、やっと周りが見えるようになってきたところです。

林　着任当時、本学の学生は全体的にまじめでおとなしく、やや受け身的な印象がありました。しかし、実際に話してみると、意外に自分の考えをしっかりと持っている学生が多く、うれしく思っています。

山口　志望動機でもあった少人数教育にやりがいを感じています。一般的な大学では大人数での授業が多く、学生の個性に応じた教育は実際のところ難しいものです。その点、本学では、学生の顔が見える行き届いた教育ができ、大変うれしく思います。学生たちとの課外活動では、実際に作品も創作し、いくつかの作品で企業関係の大きなデザイン賞を受賞しました。今年度からは地域の産業振興などにも関わりはじめ、ようやく山口県の人間になってきたという実感を得ています。

より存在感のある大学に本学の魅力をアピールすべき

——これからの本学に求められるものは何だと思いますか？

山口　実は赴任してから気付いたのですが、全国に通用するだけでなく、地域にも役立ちそうな面白い研究をされている先生方がとても多い大学で、外から見ていたよりもずいぶんパワーがあると感じました。内側に蓄積されたそれらの素晴らしい実力を、もっと外に見える形で広く発信し、地域社会に還元していくことが必要ではないかと思います。

林　「大学は学生のために存在する」と言いますが、本学の使命と価値は、ここに入学してきた学生を世の中に通用する人間に成長させるとともに、社会に貢献できる人材を輩出することだと考えます。また、地域に開かれた大学、地域と世界をつなぐ大学を目指す本学の素晴らしい方向性を、より具体的に実行していくことが今後大切になってくるのではないでしょうか。

植田　変革期の大変な時期ではありますが、事務職員の果たすべき役割については頭の中では理解できていても、恥ずかしながら今の自分にはまだピンときていないのが正直なところです。まずは目前の仕事を精一杯させていただくこと、それが第一歩だと考えています。

中島　本学を国内外にアピールできる情報発信拠点の段階的な整備が必要だと思います。さらに、それを有効活用するには、私たち職員1人ひとりの「大学を盛り上げていくんだ」という意識が欠かせません。また、各教職員の柔軟な発想をバックアップするシステムや、業績が正当に評価されるシステムのさらなる整備に期待します。

自分の能力を高めつつ縁の下の力持ちであり続けたい

——最後に、今後の抱負を聞かせてください。

中島　私たちプロパー事務職員は、諸先輩方が築いてくださった良き伝統を踏襲しつつ、新たな視点から大学が発展するための施策を模索していかなければなりません。そのためにも、自己の発想力や企画力を高め、得手不得手の壁を作らないよう自己研鑽に励みたいと考えています。

植田　これから少しずつ視野を広げ、地域密着型の大学として県民に必要とされるためにはどうあるべきなのか、その姿を追求していけるような自分になりたいと思います。今何ができるのかを常に考え、皆さんを支える縁の下の力となって、本学の発展に貢献したいです。

林　韓国語学教員としての責任と誇りを持ち、より本学の学生にマッチした授業を展開しながら、学生が学問的にも人間的にも成長できるようバックアップしていきたいと思います。そしてやはり、日韓交流や地域社会に少しでも貢献できることを志して、活動していきたいです。

山口　新学科の1期生も2年生となり、彼らも具体的な研究の方向付けが必要となる時期にさしかかりました。先輩のいない1期生たちの兄貴分と言いますか、先輩としての背中も見せてやりつつ、自分の企画・デザインに学生を参画させての教育展開を計りたいと考えています。

皆さん、どうもありがとうございました。

座談会参加者

なかしま　れいこ
中島 玲子
国際化推進室　主任
平成20年4月1日採用※

うえだ　ひろあき
植田 博晃
総務部経理グループ　主査
平成20年4月1日採用※

イム　ヒョンジョン
林　炫情
国際文化学部国際文化学科　准教授
［社会言語学・韓国語教育］
平成19年4月1日採用

やまぐち　ひかる
山口　光
国際文化学部文化創造学科　講師
［プロダクトデザイン・地域産業デザイン］
平成19年4月1日採用

※山口県立大学の事務職員は、平成19年度までは全て県からの派遣職員でしたが、平成20年4月1日付けで6名の事務職員（常勤）を、法人として初めて採用しました。

YPU New Wave

この半年の出来事

「やまぐち桜の森通信」を創刊した本年3月下旬から9月下旬までの主な出来事について、ニュースリリース［報道発表］したものを中心にご紹介します。

3/19 ○平成19年度山口県立大学卒業証書・学位記授与式

学部生310名、大学院生16名の計326名が、新たな夢に向かって、本学を巣立っていきました。

卒業証書・学位記授与式

4/3 ○平成20年度山口県立大学入学式

快晴の桜満開の中、学部生327名、3年次編入生25名、大学院生27名の計379名の入学式を挙行しました。

入学式での入学生宣誓
（国際文化学部文化創造学科　末永友紀さん）

4/7 ○桜翔館（おうしょうかん）オープン

1号館前に、2階建ての「桜翔館」がオープンしました。この桜翔館には、学生支援グループ、学生活動支援センター、国際化推進室及びプロジェクト支援室が入居したほか、1階には学生のグループ学習等の利用を目的として、一度に100名の利用が可能な「グループ学習室」が設けられ、日々多くの学生が利用しています。

桜翔館の全景

5/15 ○山口県立大学開学記念行事

開学67年を記念し、本学の開学を祝うとともに、「山口県立大学で学ぶことの意味を問う」をテーマとしたシンポジウム等の開学記念行事を開催しました。また、当日は併せて、本学が本年4月に創設した「特別栄誉教授」の第1号に決定した、山口県指定無形文化財萩焼保持者の　大和　保男　氏の称号授与式と特別講演も行われました。

大和保男氏特別栄誉教授称号授与

6/7 ○山口県立大学学園祭「水無月祭」

本年も学生による実行委員会主催の「水無月祭」が開催され、伝統の騎馬戦をはじめ、各サークル等によるステージ発表や模擬店など、工夫を凝らした多くの催しが準備され、例年に負けない盛り上がりを見せました。

水無月祭の1コマ

6/30～7/21

○グローバル学生交流

本学と学術交流協定を締結している曲阜師範大学(中国)と慶南大学校(韓国)から10名ずつの学生を招き、約3週間にわたって本学の学生とともに学内外の様々な場所で学習や交流を図るグローバル学生交流も、今年で8回目となりました。

グローバル学生交流:歓迎式典

7/1

○国際文化学科 浅羽(あさば)講師 韓国の大学院の招聘(へい)教授に

浅羽祐樹講師が、専門の国際関係論等に関する教育研究活動を高く評価され、北朝鮮研究では世界でも有数の研究機関、韓国・ソウルに位置する北韓大学院大学校の招聘教授に任命されました。任期は2年で、本学の業務に従事しながら、これまでも一流の政治学者が招聘されている北韓大学院大学校が行う研究に参画します。

右が浅羽講師、中央が朴　在圭 北韓大学院大学校総長、左が本学の江里学長

7/19

○オープンキャンパス

高校生や保護者を対象に本学のキャンパスを開放し、入学試験や学部・学科の概要説明、模擬授業、キャンパスツアー等を実施し、約500名の高校生と約150名の保護者の参加がありました。

オープンキャンパスの1コマ

7/21

○河内山柳井市長による特別講義

生活科学部の客員教授として柳井市長の 河内山 哲朗 氏を招き、「分権時代の地方自治～豊かな生活をめざして～」と題した特別講義を、学生のほか一般県民も対象に行っていただきました。

河内山市長特別講義の1コマ

7/31

○文化創造学科 井生(いお)教授 フィンランドの勲章を受章

井生教授を挟んで、左が松野理事長、右が江里学長

フィンランド大使館において、ヨルマ・ユリーン大使から井生文隆教授に、フィンランド白薔薇勲章騎士一級章が伝達されました。これは、フィンランドのデザイナーが日本の伝統的な素材である竹をデザインする展覧会を、井生教授が多く企画・開催するなど、両国間の交流を積極的に推進してきたことが高く評価され、フィンランド大統領から授与されたものです。

また、(財)防長倶楽部(東京都港区　松野浩二理事長)から、同法人の平成20年度教育活動事業として、井生教授の研究創作活動「竹の積層合板による製品のデザイン開発」に対し、50万円の寄附金の申し出をいただき、9月9日、松野理事長から江里学長と井生教授に伝達されました。

8/26

○県評価委員会の業務実績評価

法人化後2年目となる平成19年度は、文部科学省が大学の優れた教育プログラムに対して財政支援を行う「GP(Good Practice)」について、全国の公立大学で最多となる5件が採択されるなど、法人の前年度実績を発展させる取り組みが、理事長(学長)のリーダーシップのもとで積極的かつ組織的に進められている」として、中期計画の進捗は概ね順調との評価を得ました。

現代GPの具体的取組:環境「みらい」サミットの1コマ

Experience

学生スタッフ体験記

7月19日に開催したオープンキャンパスでは、33名の学生スタッフが全体的な運営業務を担いました。また、各学部においても、多くの学生が所属学科のＰＲを行いました。

初心を振り返るきっかけに

看護栄養学部　栄養学科1年●若林（わかばやし）　舞（まい）

去年の夏、短大と大学のどちらで栄養学を学ぶか悩んでいました。早く卒業して人の役に立ちたい。でも、やるからには本格的に学びたい。どの選択が自分の為になるのかをはっきりさせるため、山口県立大学のオープンキャンパスに足を運びました。その時、栄養学科の先輩に「本気で勉強したいなら大学に行った方がいいよ。4年なんてあっという間だから、焦る必要はない」と言われ決心がつき、大学に進学しました。あの日、オープンキャンパスに行っていなければ、今の自分はなかったと思っています。だからこそ、自分も悩んでいる人の手助けが少しでもしたいと思い、学生スタッフに参加しました。

実際にスタッフとして活動してみて、随分前から準備することに驚きました。私の仕事はステージでの発表と誘導、キャンパスツアー。スライド作りでは高校生が何を知りたいのかを考えながら作成することに苦労しました。ツアー時には、高校生や保護者の方々と学校でのことを話しながら案内をし、大変でしたがとても充実した1日を過ごしました。

今回高校生と接したことで、自分が何をしたくて入学したのか、初心を思い出すことができました。これからも夢に向かって一歩ずつ、自分の道を歩んでいきたいと思います。

学生スタッフのメンバーと教務グループ職員
手前右が若林さん、後列左端が石堂さん

キャンパスツアーで、参加者の親子に
掲示板の説明をする若林さん

出身高校訪問記

昨年度から、本学の学生が出身高校の進路指導教員等のもとを訪問し、学生の目線から本学の教育内容や学生生活について直接紹介する大学広報活動を行っています。今年度も、希望した72名の学生が、本学のオリジナルＹＰＵクッキーをお土産に、夏休みの期間を中心に出身高校を訪問しています。

恩師に大学をPR

看護栄養学部　看護学科1年●山下（やました）　祥子（しょうこ）
（広島県立三原高等学校出身）

高校3年生の時の担任の先生に会ってきました。私に山口県立大学を受験するよう勧めてくださったのはこの先生でした。15分程度しか時間がとれませんでしたが、高校時代の話や、大学の環境などについて話をしました。また、短い時間の中で、現在の生活や友達関係などについて熱心に聞いてくださいました。

大学に進学して4カ月しか経っておらず、大学生活にもまだ完全には慣れていないため大変なことも多いですが、先生の「頑張れ」の一言にとても励まされました。高校生活最後の1年間はとても楽しく、今までの中で一番思い出深い年でした。それを一緒に作り上げてきた先生と少しでも話すことができたのはとてもうれしかったです。

先生は来年定年退職されますが、今後も連絡を取り合えたら良いなと思いました。「またおいで」と言ってくださった先生に、今度会う時には、大学にも慣れ、目標に向かってしっかりと歩んでいる自分の姿を見せたいです。

大学の概要説明をする山下さん

三原高校 塩崎敏郎先生とお土産のYPUクッキー

大学全入時代を間近に控え、本学が厳しい大学間競争を勝ち抜くためには、より存在感のある大学として、地域社会へ積極的に広報することが求められています。

例年よりも早い梅雨明けで猛暑となったこの夏、本学の学生が、大学広報の一員として大粒の汗を流しながら取り組んだ一コマを紹介します。

受付で資料を手渡す石堂さん

満員の全体説明会場
2Fは保護者席

初めて味わった達成感

国際文化学部　国際文化学科1年●石堂友里恵（いしどう ゆりえ）

私は昨年のオープンキャンパスには参加していませんでしたが、山口県立大学の良さを発信したいと思ったと同時に、私自身も大学の良さを改めて深く知りたいと思い、学生スタッフの形で参加しました。

まずは配布物作りです。大きなイベントで配布される資料の一つひとつが人間、一人ひとりの手によって作り上げられているということを、身をもって知ることができました。

次に、受付の仕事を任されました。ＹＰＵクッキーの評判も上々で、資料を渡すたびに、「ありがとうございます」と笑顔で返され、こちらもうれしくなりました。学内ツアーでは、高校生と一緒に様々な教員の方の研究室を訪問し、先輩方や先生方から貴重なお話を聞くことができ、私もすっかり高校生の気分で参加していました。

アルバイトや生徒会の経験も全くなかったので、多々不安はありましたが、今回の経験を通して、労働から得る達成感や感謝されることの喜びを味わうことができました。また同時に、大きなイベントの背景には、裏方の苦労があることを知りました。県立大を目指す高校生を見て、私も初心を忘れずに、今持っている夢に向かって頑張りたいと思いました。来年も是非参加して、さらに大学を盛り上げていければと思います。

華陵高校　梅田尚之先生。左側が久重さん、右側は看護学科1年の貞野翔子さん

YPUクッキーを食べながら大学をPR

先生と後輩とのすてきな再会

国際文化学部　文化創造学科1年●久重（ひさしげ）　文香（あやか）
（山口県立華陵高等学校出身）

私は、8月18日に母校を訪問しました。その日は登校日でもあったため、たくさんの先生方や後輩たちに会うことができました。卒業して以降初めての訪問だったので、少し緊張したのですが、先生と話しているうちに高校時代の感覚が戻り、大学受験の経験や大学での授業の様子、寮生活の様子など楽しく話をすることができました。持って行ったＹＰＵクッキーを食べながら、山口県立大学についてもアピールすることができ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

職員室で話していると、たくさんの生徒が先生のところへ質問に来たり、入試のためと思われる原稿を確認してもらいに来たりしていて、高校時代を思い出しながらとても懐かしく感じました。今年も山口県立大学への希望者が多いようなので、ぜひ入学できるよう頑張って欲しいと思います。部活の後輩も興味を持ってくれ、大学のことやサークル活動のことなど話していると、楽しそうだと言ってくれました。

今回私が訪問したことで、少しでも受験生の役に立つことができたのならうれしいです。私としても、久しぶりに母校を訪問できて良い経験になりました。

Welcome to LAB

国際文化学部　国際文化学科
比較政治研究室
准教授 井竿（いざお）　富雄（とみお）

比較政治研究室では、政治に関する多種多様な問題を扱っています。国際文化学部では私以外にも、浅羽先生の「国際関係論研究室」があります。政治は他の領域に比べ、ややとっつきにくい分野ですが、逃げるわけにはいかない大事なものです。

私個人の研究は日本近代の政治外交史、特に「シベリア出兵」にかかわることです。そのせいか、どうしてもゼミのテキストなどで読んでいるのは日本の政治に関するものが多くなります。08年の前期は星浩『安倍政権の日本』（朝日新書、06年）を読みました。安倍内閣の行く末を予測した本を今の時点から読んでみよう、という奇妙な味の企画でした。現代日本政治を取り扱うのは、それが直接私たちの生活にかかわる問題でもあるからです。そして有権者として（早ければ2年生の時に初めての投票をする）政治にかかわることの大きさと重さを感じていただきたいということもあります。

ゼミ生が取り組んだ卒論のテーマの種類は百花繚乱です。姉妹校の韓国慶南大学校やスペインナバラ州立大学へ留学し、「韓国における日本大衆音楽」や「サッカーとスペインの地域ナショナリズム」など、指導教員よりもグローバルな視野から卒論を完成した人もいました。その他にも、パゾリーニの映画、少年犯罪やテロの問題、子どもの学力低下といった各種のテーマが選ばれ、地域政治から外国の話までなかなか多彩です。

社会福祉学部　社会福祉学科
心理学Ⅱ研究室
准教授 大石（おおいし）　由起子（ゆきこ）

私の専門は臨床心理学です。臨床心理学とは、心や身体に不調がある人に関わり、援助するための視点と方法について学ぶ学問で、人の精神発達のプロセスや様々な心理的不適応についての知識、カウンセリングの技術に至るまで幅広く学ぶことが必要になります。また、社会福祉学部が養成する社会福祉士（ソーシャルワーカー）も、高齢者や障がい者、子どもへの援助活動において、臨床心理学的な視点と技術が求められるようになってきます。

研究室には、様々な福祉領域の中でも特に心理的側面に興味を持つ学生が集まってきます。私自身の研究テーマは不登校臨床や子育て支援、ピアカウンセリングなどですが、ゼミ生には、自分の問題意識の中から自由にテーマを選んでもらいます。彼らが取り上げるテーマは、自己肯定感の獲得プロセスや友人間での自己開示の男女差など青年期にある学生たちに身近なものから、高齢者介護における介護者の心理的ストレスの問題、高齢者への音楽的療法の実践に至るまで、多様なものがあります。そして、各々の研究テーマについて皆が意見とアイデアを出し合いながら、相互援助的に進めていきます。

また、学内の学生による学生への相談支援であるピアカウンセリングや、地域交流スペース「Yucca」における子育てピアカウンセリングの子ども託児ボランティアなど、学部生に可能な臨床のフィールドを用意して、体験を積んでもらうことを期待しています。

Watch Lecture

エコアクション21構築実習

本学では今年度より、持続可能な社会に貢献する人材育成を目的として副専攻制度を立ち上げ、「環境システム」と「健康」の2つのコースを新設しました。副専攻は主専攻の専門的な知識や技術を身につけることに加え、社会的ニーズの高い分野の学習を通してより高い実践力を養成するプログラムです。

「エコアクション21構築実習」は、副専攻「環境システム」において核となる実習科目です。組織の中でPlan（計画）-Do（実行）-Check（評価）-Action（改善）のPDCAサイクルを実施していくため、柔軟性の高いシステム設計を発想でき、組織の実態に応じた改善、提案ができる解析力と提案力を身につけることを目標としています。

今年度は9名の受講生が、1号館南側に幅10mにわたる緑のカーテンを育成しています。ヘチマ、キュウリ、ゴーヤ、朝顔の4種の苗を5月15日に苗植えを行い、8月初旬にはヘチマの先端が3階建て校舎の屋上にまで達し、見事な緑のカーテンができあがりました。同時にエアコンの消費電力や室温などを測定し、緑のカーテンによる省エネ効果を検証しています。実習ではこれらのデータを解析し、どのような対策をとれば効果的に消費エネルギーを削減できるか考えることで、持続可能な社会を生き抜くための実践力を養います。

5月15日 緑のカーテン苗植え式

6月26日現在

7月17日現在

8月17日現在

Consultation

相談の森

皆さんから寄せられたさまざまなご質問に、専門領域の本学の教員がお答えします。

Q 私は50歳を過ぎた頃から、健診でコレステロールが高いと指摘されるようになりました。体重は昔からそれほど多くなく、どちらかというと痩せている方です。食生活面では何に気をつけたらよいですか？［54歳女性］

A 一般的に、女性の場合、善玉といわれるHDLコレステロールは全年齢を通して男性よりも高値を維持しますが、悪玉といわれるLDLコレステロールは閉経期を境に男性よりも高くなります。これは女性ホルモンの産生停止が主な原因ですので、ある程度避けられないものです。高コレステロール血症といえば、連想されるのが動脈硬化症でしょう。その下流にある心筋梗塞の発症率は、50歳代では男性の約1/5と少ないのですが、加齢とともにその比率は徐々に高くなっていきますので、日本女性の平均寿命を考えた場合、上手に予防したいところです。

では、食生活面で具体的にどうすればよいのか、次の項目で思い当たるところがないか振り返ってみてください。青魚や大豆製品に比べて肉や卵を使ったご馳走が多くないか。魚卵や内臓を好んで食べていないか。乳製品を毎日2カップ以上とっていないか。洋菓子を好んで食べていないか。逆に、野菜、海藻、きのこ類を使った料理が少なくないか。いかがでしょう？

血液中のコレステロールは内因性のものの割合が多いので、もう一つの方法として、過剰なコレステロールを体外に排泄してしまおうという作戦もあります。食物繊維をしっかりとって便通をよくすること、特に海藻や野菜に含まれるヌルヌルした水溶性の食物繊維は、コレステロールを抱え込んで腸からの吸収を阻害し、便中への排泄を促進しますので、結果的に血中コレステロールの低下が期待できます。果物や芋類にも含まれますが、皮付近に多く存在しますので、皮も一緒に食べることが賢い食べ方でしょう。きのこ類もお勧めです。これらのおすすめ食材は、抗酸化作用を持つビタミンも多く含んでいますので、動脈硬化の原因となるLDLコレステロールの酸化防止にも役立ちます。それに、なんと言っても低カロリーなので、体重コントロールのためにも安心ですね。また、未精製穀類も優良食品です。

まずは食生活と身体活動の改善が優先されますが、思うように効果が得られない場合、特に高血圧や高血糖などの検査所見が同時に認められる場合は、医師に相談して薬物療法についてもご検討ください。

看護栄養学部　栄養学科
准教授
乃木（のぎ）　章子（あきこ）
（専門領域：臨床栄養学）

Student's Interview

いま、キミは輝いて

大学院健康福祉学研究科
健康福祉学専攻1年
三浦（みうら）　理恵（りえ）さん
【学生活動支援センター職員】

今しかできないこと

4月から学生活動支援センターで働きながら大学院に通っています。数年の社会人生活から心機一転、短期大学に入学し、その後山口県立大学の生活科学部栄養学科（3年次）に編入しました。2年間の大学生活を終えた後は再び就職するつもりだったのですが、学ぶ過程の中で進学する道を選び、3年目の夏を迎えることとなりました。

学部生の頃は編入生ということもあり、授業に追われる毎日でしたが、通常より短いこの大学での学生生活を充実したものにしたいと思い、できるだけ大学の行事には参加しました。また、栄養学科の食育プログラムの開発に取り組む中で、学年を越えた交流とともに先生方との信頼関係も築いていけたように思います。さらに4年の後期からは、2011年の山口国体に向けて県内の学生のみで結成された広報ボランティア「ぶちやっちょる隊!!」にも参加。県立大学の初代リーダーを務めさせていただき、現在も学生として活動を続けています。大学院の授業は夜間にも開講されているので、私は終業後に大学院へ通うのですが、働きながら学ぶ社会人の方も多く、そのやる気と姿勢に日々刺激を受けています。

この小さな大学での、数多くの出会いに支えられながら、私の「今」があります。回り道や寄り道ばかりしている私ですが、いつも温かく見守ってくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、「今」を楽しみ、「今」を積み重ねていくことで、結果に繋げていきたいと思っています。

国際文化学部
国際文化学科3年
井原（いはら）　正太郎（しょうたろう）さん
【学生自治会長】

学び

岡山県は倉敷市に生を受け、今、この山口県でお世話になっています。イギリスとニュージーランドでの自身の留学経験から「日本文化を知った上で海外に出る」という学部の考えに強く共感し、1年の浪人生活を経て山口県立大学を受験しました。1年生のころから様々なことに意欲的に取り組み、学長をはじめ大学関係者の皆様にも顔を知っていただくようになりました。

自治会長という役職は、3月のある日、先生から声をかけていただいたのがきっかけでした。私は小学生時代から今に至るまで、いわゆる生徒会というものに何らかの縁あって携わってきました。しかしながらいずれの場合も「長（おさ）」という役職には就いておらず、サポートやムードメーカー、アイデアマンとしての仕事の方がメーンでした。

そして今回、自治会長というお話をいただき、初めて長の役職に就いています。ここ数年の自治会は、学生の生活支援・充実という機能を失い、前自治会においては前会長を含む3名ほどが実質の執行部でした。しかし今回は14名の立候補者（推薦含む）から成る自治会執行部を立ち上げ、役割分担を徹底し、皆で自治会組織の立て直しを行っています。問題は山積しており、苦難を強いられる事態が予想されますが、一心に自分たちの大学に対し尽力していく中で、「これもまた、大学を通じて得る大きな学びである」と、自分を少しでも成長させていきたいと思っています。

Circle Report

山口県立大学弓道部

弓道部は週3回の合同練習とその他の時間帯で自主練習をしており、外部からお越しいただいている村田先生にも指導を受けています。80歳を超えてなお現役で弓道をされている先生から学ぶところは多く、部員同士は互いに教え合ったり、時には一人で自分と向き合いながらじっくりと考えて答えを見つけ出していきます。そうした一人ひとりの努力が射の向上へと繋がり、今年2月に行われた「中四国学生弓道新人戦」において女子が団体優勝を収めることができました。大学でも表彰していただいたので村田先生をはじめ顧問の松田先生や先輩方も喜んで下さり、今まで指導していただいた恩返しが少しはできたと思っています。

今後は弓道の質を高め、勝敗だけにとらわれることなく武道の人格の形成にも目を向けていきたいです。部員一同、多くの方々の支えで弓道をさせていただいているということに感謝し、これからも日々練習に励んでいきますので、応援よろしくお願いします。

Exchange Program
交換留学

❶留学先大学の印象
❷ホストファミリーとの1番の思い出／寮生活の1番の思い出
❸留学中に訪れたお気に入りの場所とその理由
❹留学先大学の授業の印象
❺留学中に参加した課外活動と思い出

山口県立大学では、中国・韓国・アメリカ・カナダ・スペインの6大学と学術交流協定を締結し、交換留学、短期語学研修、共同研究等を実施しながら、学生や教員の交流、地域社会の国際化を進めています。
今回は中国・山東省の青島大学との交換留学生にスポットを当てます。

青島大学へ

山口県立大学
国際文化学部国際文化学科4年
長弘（ながひろ）　芙弓（ふみ）さん

手前右が長弘さん

❶キャンパスがとても広くて驚きました。寮から教室まで15分もかかるので、留学して間もない頃はよく迷いました。キャンパスの真ん中に図書館があり、学生達が熱心に勉強しています。
❷寮では、よくクラスの人たちと自国の料理を自慢し合いながらパーティーをしました。年末年始には、他国の留学生のために、年越しそばやお雑煮なども作りました。
❸海です。青島大学は市街地の近くにあって、周りは高層ビルばかりなので、田舎育ちの私には少しその環境が辛く、「山口に帰りたい」と思うこともありました。そんな時は青島の海を見て山口の海を思い出し、「また明日がんばろう」と元気をもらいました。
❹自分の実力より少し上のクラスに入ったのですが、クラスの人数が10人程度と少なく、先生との距離も近かったため、楽しく勉強できました。授業内容に留学生の意見を取り入れたり、学外に出かけるなど、楽しく学ぶことを重視しているように感じました。
❺他の日本人留学生と一緒に、青島の子どもたちのためにボランティア活動を行いました。それは、留学生から洋服や文房具など不要なものを回収し、青島市内の小学校へ寄付するとともに、児童と触れ合うというものでした。小学校訪問当日は残念ながら参加できず、企画と準備のみの参加となりましたが、この活動は私にとって良い経験になりました。

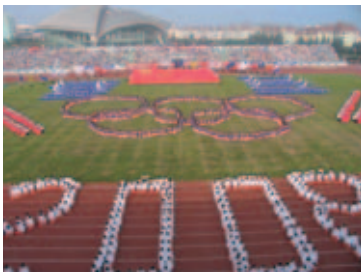
山口県立大学へ

青島大学院生2年
刘（リュウ）　胭脂（エンシ）さん

右が刘さん

❶山口県立大学は規模は小さいけれど、機能は完全にそろっています。先生方は大変優しいです。女子学生が圧倒的に多いです。学生たちは皆自分の好きな先生、授業を選択でき、クラスという単位がないことに驚きしました。
❷肌寒さを感じる4月に来て、部屋に暖房がないので、初めの1週間は毎日韓国の留学生とこたつに入って世間話をしました。「こたつに慣れたらなかなか出られなくなり、怠け者になるよ」と中国にいる日本人の先生に言われましたが、どうしても止められませんでした。
❸徳地の串がとても好きです。水、森、水田が絵のように美しく、串の蛍は星のようにずっと心の中で輝いています。串の民俗資料館にある鞴、秤、織機などが私の故郷のものとほとんど一緒で、故郷を思い出させました。ホームステイ先のお母さん、お父さん、おばあちゃんがとても優しくしてくださって、今でも手紙のやり取りをしています。
❹地域共生演習の授業が一番印象深いです。社会は将来の舞台なので、地域の方々との交流を通して事前にリハーサルしたら、人生の本番はもっと素晴らしくなるのではないでしょか。
❺障害がある方を対象にした施設でボランティアをしています。初めて接した時、なぜ彼らはそんな不平等な人生を過ごさなければいけませんか、と理解できませんでした。彼らを介抱している間に、彼らの人生を愛し、命を尊重する気持ちがよく分かり、とても勉強になりました。彼らに心から感謝します。

青島大学　中国・山東省


青島大学体育場

青島大学は、山々を背景とした海沿いの街に白い建物が浮かび上がる美しいキャンパスを有しています。1924年に設立され、1993年には4大学が合併して大きな総合大学となりました。夏は涼しく冬は温暖な気候に恵まれ、産業と港で栄えた西洋風の町並みが残る都市にあります。このたびの北京オリンピックで青島は、上海、天津、瀋陽、香港と並んで競技会場（ヨット）となり、ますますの発展を遂げています。

青島大学には、学部生が約25,000人、大学院生が約1,000人、通信教育等で学んでいる学生が約10,000人います。学部は、文学部、情報技術工学部、医療科学部、教育学部、法律学部、経済学部、国際学部など22学部。中国で、設立当初から外国人の受入を許可された200大学の1つで、国際教育交流や留学生教育に力を入れており、世界20カ国以上、600名近い留学生が学んでいます。正門を入った中央に図書館、左にゲストハウスを兼ねたホテル、キャンパスの奥には大学附属病院、寄宿舎などが立ち並んでいます。

本学とは、2004年に教育学術交流協定が締結され、2007年度からは学生交流が始まり、これまで青島大学へ1名の派遣（1年間）、青島大学から2名の受入れ（1年間）が行われています。2007年秋には、青島大学から本学の江里学長に対し、名誉教授の称号が授与されました。

Topics

■山口県立大学から２名の学生が「チャレンジ！おおいた国体」に出場します。

第６３回国民体育大会「チャレンジ！おおいた国体」（９月27日～10月７日）の山口県代表に、本学の生活科学部環境デザイン学科４年の原田希有子（まゆこ）さんが山岳競技の選手として、社会福祉学部社会福祉学科２年の岡村　梢さんがアーチェリー競技の選手としてそれぞれ選ばれ、(財)山口県体育協会会長（会長　二井関成山口県知事）からの通知状が、江里学長から伝達されました。

山岳競技成年女子に出場する原田希有子さんは、国体出場が今回で４回目（昨年は少年女子の監督として出場）となります。特に、今年の成年女子には、世界レベルの選手が多く出場するなど、ハイレベルな展開が予想される中で、「入賞できるかもしれない。入賞したい。」と力強く抱負を語ってくれました。経験を活かしたアタックに期待です。

アーチェリー競技成年女子に出場する岡村　梢さんは、競技歴わずか４年で、国体初出場の栄冠を勝ち取りました。「昨年補欠で出場できず悔しい思いをしたことを糧に、思いっきり頑張りたい」と冷静に抱負を語ってくれました。この９月に開催された中国地区大会では個人優勝するなど好調をキープしており、素質を活かした上位入賞が期待されます。

江里学長から伝達される原田さん（上）と岡村さん（下）

編集後記

平成20年9月秋分の日　　阿野　徹生（経営企画室長）

この「やまぐち桜の森通信」を創刊した頃、満開だったキャンパスの桜は、今、葉の色を夏色から秋色に変えつつあります。静かなキャンパスに鳴り響いていた蝉の声もすっかりおとなしくなりました。
10月からの後期授業の開始を間近に控え、夏色の顔をした学生たちが、少しずつキャンパスに戻って来ています。活気あふれるキャンパスの再現もまもなくです。
第２号となる今回の「やまぐち桜の森通信」は、学生や教職員の活動の様子を中心に構成しました。これらの記事を通じて、大学生活の一端に触れていただければと思います。
今後とも、大学の内外を問わず、多くの皆様からの読後の感想や御意見、お知恵や情報をお待ちしております。

公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

〒753-8502　山口県山口市桜畠3丁目2番1号
Tel.083-928-0211　Fax.083-928-2251
http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/
※Web動画配信も行っています。

※　表紙の題字は、江里理事長（学長）の直筆です。

※　表紙の写真は、地域共生演習の一環として、山口市荒高町内会の「もりさま祭り」に参加したときの1コマです。